

全国特別支援学級設置学校長協会
全国理事研修研究協議会報告

幼小中高をつなぐ支援と
瑞穂中学校の教育活動

平成27年 1月29日

京丹波町立瑞穂中学校

「京丹波町」の紹介から



平成17年

旧丹波町、瑞穂町、和知町の合併により誕生

●人口 15700 人

●町内には

小学校 5 校 総児童数 625 名

中学校 3 校 総生徒数 398 名



「瑞穂中学校」 について



本校の校区は
京丹波町の南西に位置
面積約110平方キロの農山村

健康・健全

挑戦する力

自主・人権

つながる力

明朗・明晰

展望する力

KE

Jl

ME

- 規則や約束を大切にしよう
- 生活習慣や学習習慣を向上させよう

平成24・25年度京都府教育委員会「みらい創造校」

「学ぶ主体としての生徒の育成」=学力

幼小中高をつなぐ支援と

瑞穂中学校の教育活動

京丹波町就学指導委員会での
研修の様子から

本校の特別支援教育

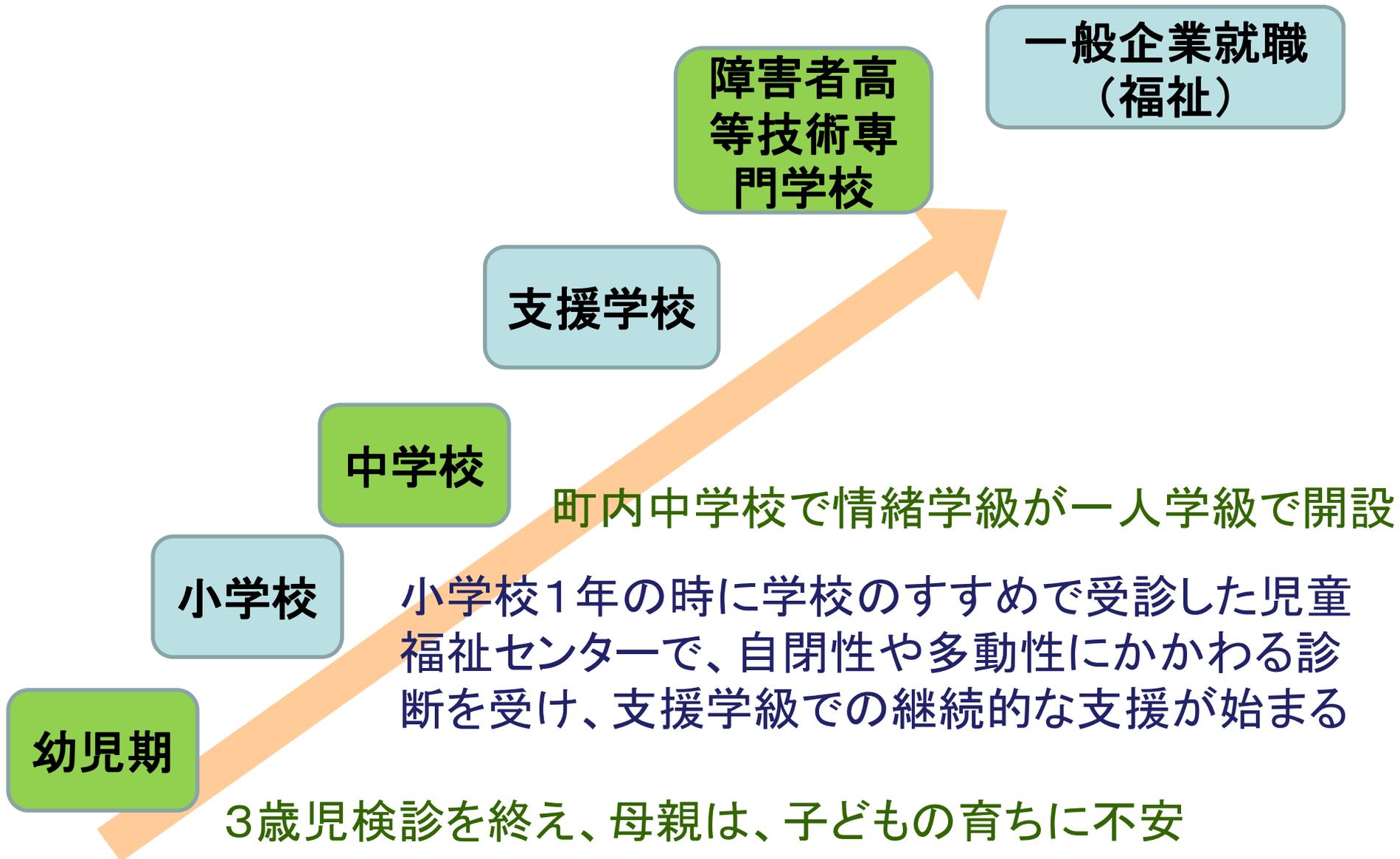
平成26年度
入学生受け入れに向けての
連携と取組

A君の生育の姿をたどり

おこなわれた研修会

(幼児期から就労まで)

(1) 研修会は A君の生育の姿をたどりました



研修会 / その準備は・・・

○本人・保護者の了解のもと・・・

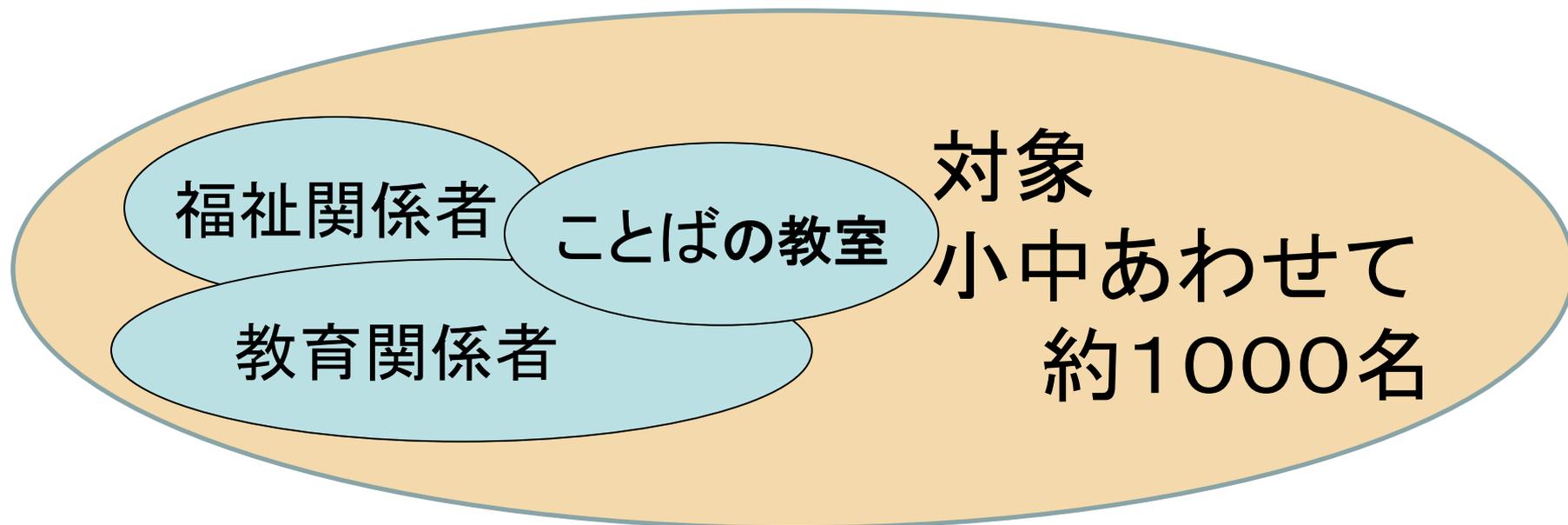
本人、母親、幼・小・中・支援学校でA君を担当した職員から当時の様子を聞き取る・・・

その成果は・・・

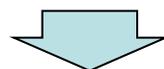
① 日々の支援が、どのように明日につながったかを知ることができた。

② 今、目の前の子ども達への支援について、思いを深める機会となった。

京丹波町就学指導委員会



長きにわたり子どもたちの生育に関わり、
対象となる子ども達の顔や生育歴がわかる。



深い理解と継続的な支援の実現

瑞穂中学校と支援のネットワーク

教育関係者

支援学校
ことばの教室

福祉関係者

医療関係者

- ・「京丹波町就学指導委員会」を軸にした連携
／ 巡回相談、ことばの教室連携、
町保健福祉課および子育て支援課との連携
- ・「府立丹波支援学校地域支援センター」
／ 職員研修、進路相談、保護者対応相談等の連携
- ・「発達障害者南丹圏域支援センター(花ノ木医療福祉センター)」
／ 職員研修、医療・福祉連携
- ・「京丹波町子どもを守る地域ネットワーク協議会」 ／ 各機関との連携
- ・「南丹地区幼・小・中・高等学校等連絡協議会・特別支援教育部会」
／ 幼小中高連携
- ・「南丹特別支援教育総合推進事業運営協議会」
／ 労働関係を含む関係機関との連携

幼小中高をつなぐ支援と
瑞穂中学校の教育活動 — **(2)**

本校の特別支援教育

本校の特別支援教育

「知的」、「自閉・情緒」それぞれ1学級を設置

(生徒の状況)

支援学校
在籍1名

	1年	2年	3年
学級在籍生徒数	2	2	0
通常の学級の要支援生徒	8%	7%	3%
上記外の相談対象生徒	11%	10%	6%
全校生徒数	112名		

校内委員会での検討の様子

	1年	2年	3年
学級在籍生徒数	2	2	0
通常の学級の要支援生徒	8%	7%	3%
上記外の相談対象生徒	11%	10%	6%
全校生徒数	112名		

知的課題や ADHD
の傾向に対して慮を要する生徒

友人との関係、学習の課題、
コミュニケーションの課題、ADHDの
傾向について配慮を要する生徒

学習課題(取り出しの学習)

多動、友人との関係、
学習等の課題に
配慮を要する生徒

友人関係、学力、生活習慣、
多動性や注意力
等の課題に配慮を要する生徒

学力、友人とのかわり、
不登校傾向
等に配慮を要する生徒

「みずほ学級1」(知的)

○ 在籍 1年1名、2年1名

生活に関わる基本的事項の習得

社会性の向上

基礎学力の定着

(実技教科は交流学級で)

○ 本年卒業生 2名

丹波支援学校へ 入学

「みずほ学級2」(自閉・情緒)

- 在籍 1年1名、2年1名

落ち着いた教室環境の中で・・・

人との交わりの力や社会性の向上
学力の向上

(実技教科は交流学級で)

- 本年卒業生 1名

府立須知高校へ入学。



修学旅行での交流の様子

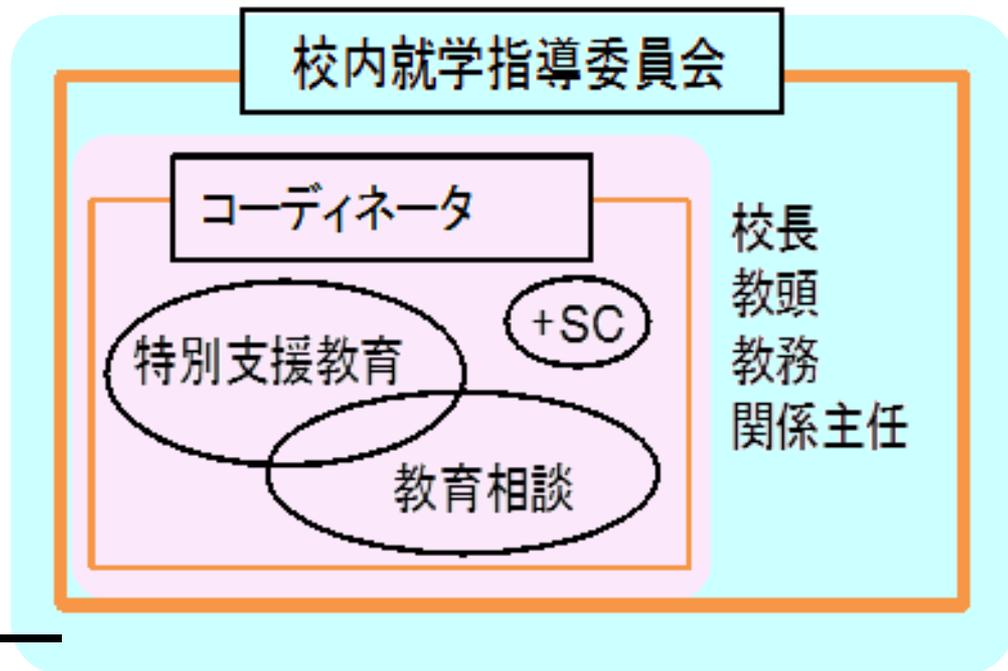
個に応じた支援の実現にむけて

1 コーディネータを軸に2段階の相談体制

特別支援教育・教育相談の合同会議



校内就学指導委員会
での方針確認

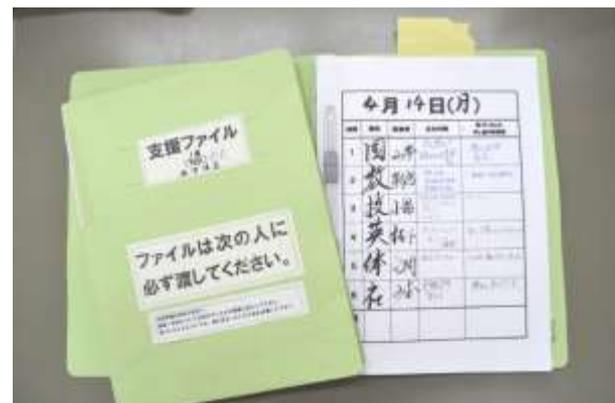


2 スクールカウンセラー

日常的な生徒観察とカウンセリング

個に応じた支援の実現にむけて

- 3 「授業支援ファイル」
学級生徒の学習の様子を、
毎時間、記録し連携



- 4 「エピソードシート」(作成中)
何らかの課題対応を行った
際のメモを時系列で残すシート

- ①事象 ②対応の内容
- ③本人の受け止めや様子
- ④保護者の受け止めや様子
- ⑤関係機関対応など



個に応じた支援の実現にむけて

- 5 要支援生徒の個別授業
(3年生 国・英の別室授業)
(1年生 5教科を「みずほ1」で学習)
- 6 職員室前で・・・
「学習コーナー」
の活用

(右図→)



障害理解、相互理解の取組

1 総合文化部

「SMAP」の活躍

SCIENCE

MMUSIC

ART

PC

(新入生歓迎会での
部活紹介の様子→)

2 育ち会う子らの集い

子ども実行委員長と
生徒会の活躍

3 異年齢集団による諸行事



障害理解、相互理解の取組

2 育ち会う子らの集い(支援学校生との交流会)

子ども実行委員長と
生徒会の活躍



3 異年齢集団 による諸行事



幼小中高をつなぐ支援と
瑞穂中学校の教育活動 — (3)

平成26年度
入学生受け入れに向けての
連携と取組

平成26年度入学生の受け入れに向けての 連携と取組

入学生の様子

生徒数 39名

小学校4年生時に、旧4校が統合

平成26年度入学生の受け入れに向けての 連携と取組

	1年	2年	3年
学級在籍生徒数	2	2	0
通常の学級の要支援生徒	8%	7%	3%
上記外の相談対象生徒	11%	10%	6%
全校生徒数	112名		

知的課題や ADHD
の傾向に対して慮を要する生徒

< 入学前 >

- 特性が強く表れる生徒への対応
 - 生徒相互の理解や人間関係づくりの困難
- クラス全体に厳しい状況が続いていた

多動、友人との関係、
学習等の課題に
配慮を要する生徒

平成26年度入学生の受け入れに向けての 連携と取組

●様々な困難が予想された中

特別支援教育の視点を含め

状況把握と生徒理解、対応の整理につとめた

- ・11月 生徒指導部間での連携や観察
- ・12月 入学説明会での観察
- ・2月 特別支援教育部の連携
- ・3月 町通級指導教室との連携

→ 入学学年の支援に配慮した職員体制づくり

《天の声 研修で学んだユニバーサルの視点》
昨年度本府設置校長会での
青山先生のお話から・・・

自閉・ADHDの子は情報整理が苦手



むしろこれが本質ともいえる・・・

「講演テープ」の校正作業では正確さを帰すために
詳しく修正されましたが、大変、印象に残りました・・・

自閉・ADHDの子は情報整理が苦手



むしろこれが本質ともいえる・・・

- ・要らないものは片付ける
 - ・見ただけで分かる
- ・忘れたときも見たら分かる



先生から注意をうける事が減る

改善のキーワード／「情報整理」と「見通し」

「自閉・ADHDの子は情報整理が苦手」

「情報整理」と「見通し」／改善のキーワード

混乱や

困り感の増幅

- ・常に注意を受ける
- ・自己肯定感の低下
- ・学校生活の混乱
- ・生活習慣のくずれ
- ・誤学習

人格の後退・・・

子供たちが見通しをもってがんばれる支援(学校)を実現できれば・・・

- ・注意を受けることが減る
- ・自己肯定感の高まりや自信
- ・人間関係の好転
- ・社会性の獲得・向上

誰もが安心して力を出せる・・・

自己指導力・・・

自尊感情の高まり・・・

意欲的なまなび・・・

(1) 支援は個別だが指導は学級づくりから

瑞中ユニバーサル

誰もが、安心して、自分の力を発揮できる学校

1, 「情報整理と見通し」をキーワードにした学級づくり

○ルール作りを進め (誰もが過ごしやすい学級)

→ 習慣を高める指導

2, 誰もが大切にされていると感じる学級

→ その上での相互の関係づくり

○「一人一人を大切にする」

= 「一人一人が大切にされていると感じる指導」

= 「日常をほめる」

3, 問題発生時を解決の好機として生かす

○「+」のチャンスも 「-」のチャンスも生かす

(1) 支援は個別だが指導は学級づくりから

瑞中ユニバーサル

誰もが、安心して、自分の力を発揮できる学校

1, 「情報整理と見通し」をキーワードにした学級づくり

○ルール作りを進め (誰もが過ごしやすい学級)

→ 習慣を高める指導

2, 誰もが大切にされていると感じる学級

→ その上での相互の関係づくり

○「一人一人を大切にする」

= 「一人一人が大切にされていると感じる指導」

= 「日常をほめる」

3, 問題発生時を解決の好機として生かす

○「+」のチャンスも 「-」のチャンスも生かす

学校における支援の基本

<p>特別支援教育の 視点を生かした 学校づくり</p>	<p>学校における 支援の基本</p>	<p>個別支援の基本は</p>
<ul style="list-style-type: none">・人手による「支援」 から、 環境と人による支援・教育としての支援	<p>個別対応よりも、 まずは、 ユニバーサル (学級づくり)</p>	<p>個別指導でなく 学級作り</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども一人一人の 関係づくり・集団を生かした 個に応じた指導

ユニバーサルの学級①(子ども同士の関係づくり)

<p>互いの良さを認め合うのが自然だと感じる学級</p>	<p>仲間の中での一体感、少なくとも心地よさを感じる学級</p>	<p>子ども同士のトラブルはとりあえず納得、経験を次に役立つ支援</p>
<p>学級づくりの鍵は</p> <ul style="list-style-type: none">・「教師自身が学級の子ども一人ひとりの良さを認める実践をしている」こと・(それ以上に)「子ども一人ひとりがそう評価されていると感じている」こと	<p>多様な文化</p> <ul style="list-style-type: none">・無理せず一緒に楽しむ・一緒にチャレンジ・自分なりの役割を果たせる <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">子ども同士をつなぐ</p>	<p>トラブル解決の支援こそ、仲間との人間関係づくりのための貴重な場</p> <ul style="list-style-type: none">・ソーシャルスキルを身につけるための得難い場

- ・「良いところはほめる」でなく「普通のところをほめる」←ここに(公平さを含めて)差が出る←公平でない手立ては組めば組むほど逆効果が起こる。
- ・ささいなことをさりげなく、自然に、ひんぱんに←これが上手か下手かの差が大きい。(下手な人はスキルとして向上させる必要がある)

新入生受け入れの中での 成果

- 「原則的な学校生活」を作る指導・努力により、入学当初から、生徒たちは、明るく比較的安定した学校生活をおくっている。
- 「ユニバーサル」という根拠性に基づく肯定的な生徒理解とその上での生徒指導、事象対応を行った。

新入生受け入れの中での 教訓

- 日常の学校生活を重視し「普通をほめる」など日常の言葉かけを大切にする指導を行った。
- 学年や学級の行事での、互いのかかわりを大切にする指導を進めた。
- 中学校生活に期待する子ども自身の頑張りがあった。
- 保護者・関係機関との連携につとめた。
(保護者とは問題解決よりも「安心の関係づくり」)

おわりに・・・

幼・小・中・高等連絡協議会須知ブロック 研修会にて
課題意識の交流を行いました。

出席者は町内の

高校 1

中学校 3

小学校 5

幼稚園 1

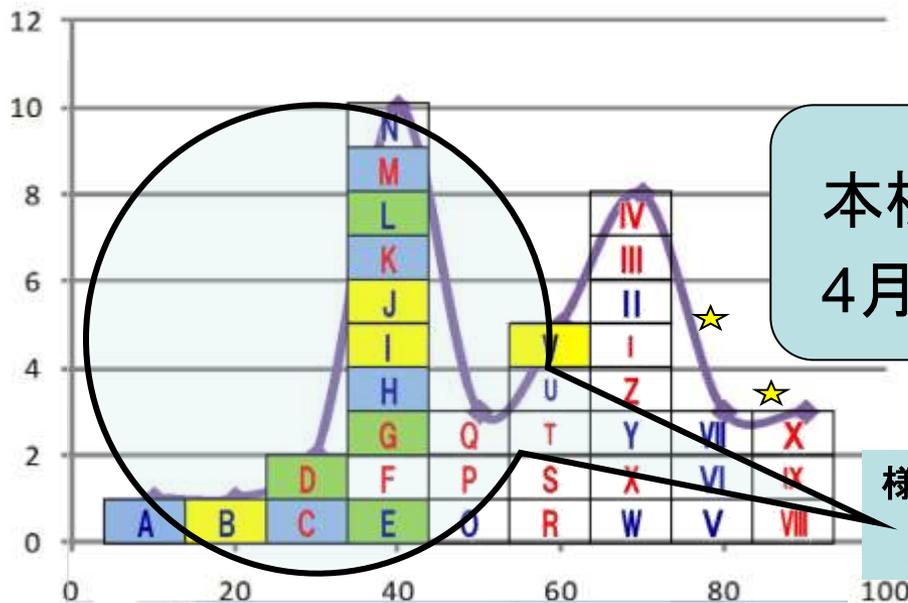
南丹教育局

町教育委員会 による

おわりに・・・

ユニバーサルによる「学校づくり」は
支援を要する子ども達に対してはもとより

教育をめぐる諸課題の解決に向かう
学校づくりのヒント(基本)・・・



本校1年
4月実施テストの得点分布

様々な背景をとらえつつ
どう主体的学びを引き出すのか

おわりに・・・

幼・小・中・高等連絡協議会須知ブロック 研修会の様子



ご静聴ありがとうございました。



平成25年度入学
みずほ学級 1年生徒作品
「筆の里 ありがとうのちょっと大きな絵手紙大賞」で賞をいただきました。